

科目名	社会人基礎力講座(GCBⅡ)							
科目名(英)	Global Citizen BasicⅡ							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	高津原 直樹 小川 春美	
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年生							
授業概要	・社会人としてのコミュニケーション技能を高めるために、マナーと協働についての知識を習得する。 ・授業内のグループ活動に臨み、場面に応じて自分の考えや意見を言語化できるようになる。 ・先人の生き方や人生への取り組み方について学び、人生を生き抜くことの大切さと素晴らしさを学ぶ。							
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○			○		接遇の基本事項について学び実践できる。		
	○			○		チームワークとコミュニケーションについて説明できる。		
	○			○		言語聴覚士として、チームで働く際の役割について理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	テキスト GCBⅡ 志の教育 学校法人 麻生塾 参考文献 ケアコミュニケーション ウィネット 2009							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	好感・信頼感を高めるコミュニケーション				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	2	信頼感を高める非言語表現				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	3	肯定的な表現				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	4	敬意の種類と使い方				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	5	グローバルシティズンと志				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	6	自分を取りまく環境を知る(発表)				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	7	先人の生き方、人生への取り組み方を学ぶ				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	8	先人の志を学ぶ				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	9	自己を知る				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	10	私の志とは				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。		
	11	志高く生きる				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける振り返りスピーチに取り組む		
	12	共感と同情				テキストと講義資料にて30分復習。他者の意見も確認しディスカッションできるようにしておく。		
	13	伝える力の実践(グループディスカッション)				テキストと講義資料にて29分復習。次回講義におけるスピーチに取り組む		
	14	伝える力の実践(発表)				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義における振り返りスピーチに取り組む		
	15	総合学習				授業資料のまとめを30分復習しておく。		
評価方法	(1)発表を2回実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	レポート	◎	○		◎		80%	
	発表	◎	○		◎		20%	
履修上の注意								

科目名	英語表現						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	佐伯 洋子
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	幅広い年齢層と接する際のコミュニケーションツールに歌を用いる事が出来る様に童謡・唱歌・抒情歌・懐メロ・ポップスを中心に歌唱練習。コミュニケーションゲームを授業の導入に使い、羞恥心を捨て・他人に優しい、気遣いの出来る神経を育てる。「わらべ歌」や「手話」を歌いながら手遊びする。呼吸法やストレッチで体の筋肉の 使い方を学ぶ。自己アピール発表会の場を設け、クラス全体でプログラム作りから、企画・構成を考え、開催する。クラス全体のコミュニケーション作りも学ぶ。						
授業形式	講義：		演習：△	実習：	実技：○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○	○		コミュニケーションツールとして歌を用いることを学び、歌唱について説明できる。	
		○	○	○		呼吸法やストレッチで体の筋肉の使い方を学び、歌唱を実践できる。	
			○	○		コミュニケーションツールとしての表現をプログラム、企画・構成し、発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト: のばら社編集部 日本のうた101 プラス6曲 野ばら社 2007 参考文献: よしだ みほこ なかよしあそびうた ドレミ出版2006、阿部 直美 指あそび手あそび123 チャイルド社2008、民衆社編集部 こどもの手話ソング集 民衆社2005、のばら社編集部 美しき日本のうた 野ばら社2010						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介、腹式呼吸の説明・実施				呼吸法・ストレッチについて30分振り返り、調べておくこと。	
	2	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	3					講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	4					講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	5					講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	6					講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	7					講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	8					講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	9					発表の内容について、30分確認し、個人、集団でアピールする内容を決めておく。	
	10					講義内容について30分振り返り、発表当日までの質問事項を整理しておくこと	
	11					講義内容について30分振り返り、発表当日までの質問事項を整理しておくこと	
	12					講義内容について30分振り返り、発表当日までの質問事項を整理しておくこと	
	13	自己アピール発表会				講義内容について30分振り返り、発表当日までの質問事項を整理しておくこと	
	14	呼吸法・ストレッチ テスト				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。(3)発表会を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	○		○	○		30%
	小テスト		○	○	○		20%
	発表			○	○		50%
履修上の注意							

科目名	医学英語									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	山下温子			
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年									
授業概要	・英語の基礎から学び、英語に対する苦手意識を払拭する。 ・短めの質問文に対し、基本的な答え方を身につける。 ・質問に答えられるようになったら、会話らしく相手に質問する。 ・簡単な自己紹介や対話など、具体的に日常の場面をイメージしながら、トレーニングする。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○		○		習得した文法を用い、自分自身について英語で発信できる。				
	○	○		○		基礎的な語彙を使った疑問文を作ることができる。				
テキスト・教材 参考図書	ECCオリジナル教材使用:Challenger1 α									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	Introduce yourself 自己紹介をする					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	2	Foods we like 好きな食べ物について話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	3	Foods we like 食べ物の好き嫌いについて話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	4	Sightseeing recommendations 町でできることについて話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	5	Sightseeing recommendations お勧めの場所を伝える					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	6	Things you did today 今日したことについて話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	7	Things you did today 一日について話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	8	Talking with Travellers 旅先でちょっとした会話ををする					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	9	Talking about Family 親戚について話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	10	Talking about Family 家族について話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	11	Talking about Others 友達と近況について話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	12	Talking about Others 未来の予定について話す					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	13	Appointments 予約をする					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	14	Appointments 約束相手の所で話ををする					既習事項の復習 単語テストへの準備			
	15	まとめ								
評価方法	(1)2回目以降授業の中で小テスト(単語テスト)を毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)毎回の授業の積極性を確認する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				30%			
	小テスト	◎	◎				40%			
	宿題・レポート									
	発表・作品									
	出席態度				◎		30%			
履修上の注意										

科目名	保健体育						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	灘吉 享子
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	・姿勢制御について理解し呼吸や発声とのかかわりについて考えることができる。・医療従事者としての態度や自己管理能力について考え、自分なりの考えを持つことができる。・チームアプローチについて理解し他者を尊重した行動がとれるようになる。						
授業形式	講義:		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				発声における姿勢制御メカニズムについて説明することができる。	
	○	○				医療従事者としての態度や自己管理能力について知り自分なりの考えを説明することができる。	
	○	○		○		レクリエーションをもとにグループワークを通してチームアプローチについて理解し他者尊重ができる。	
テキスト・教材 参考図書	印刷資料にて行います。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(講義の進めかた)				講義概要について確認する	
	2	運動について・呼吸にかかわる筋肉について				配布資料を使用し復習しておく	
	3	姿勢にかかわる筋肉について				配布資料を使用し復習しておく	
	4	発声にかかわる筋肉について				配布資料を使用し復習しておく	
	5	音が形づくられるまでの動きを分析する				分析課題を進めておく	
	6	ビデオ鑑賞/動作分析をする				分析課題を進めておく	
	7	健康について(健康維持と睡眠)				配布資料を使用し復習しておく	
	8	健康について(健康維持と食事)				配布資料を使用し復習しておく	
	9	健康について(健康維持と運動)				配布資料を使用し復習しておく	
	10	健康について(ストレスについて)				配布資料を使用し復習しておく	
	11	レクリエーションについて(概要)				配布資料を使用し復習しておく	
	12	レクリエーションについて(プログラミングについて説明)				配布資料を使用し復習しておく	
	13	レクリエーションについて(グループについて演習)				グループにて実施内容を話し合っておく	
	14	レクリエーションについて(グループについて演習)				グループにて実施内容を話し合っておく	
15	グループごとにレクリエーション内容の発表				資料をまとめておく		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	佐藤 敦子
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	医療に携わる者は人体の構造を理解しておく事は重要である。人体を構成する器官系 の大要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を機能と関連付けて学習 する。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				骨・関節系の構造と名称を理解し、説明できる。	
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、説明できる。	
	○	○				主な神経経路について理解し、説明できる。	
	○	○				演習により骨形態と組織について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:渡辺 正人 監修、 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学(第4版)、 廣川書店、 佐藤 達夫 訳、 あたらしい人体解剖学アトラス、 メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献:相磯 貞和 訳、 ネット解剖学アトラス(第5版) 南江堂、金子 丑之助 原著、 日本人体解剖学 上・下巻(第19版)、 南山堂、牛木 辰夫 著、 入門組織学 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	骨格系演習①:総論、頭蓋、顔面の骨				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	2	骨格系演習②:脊柱、胸郭を構成する骨				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	3	骨格系演習③:上肢帯・上肢の骨、下肢帯・下肢の骨				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	4	関節・靱帯演習:関節の構造、主な関節・靱帯				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	5	筋系演習①:総論、頭蓋、顔面の筋				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	6	筋系演習②:舌・口蓋・咽頭・喉頭の筋				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	7	筋系演習③:体幹の筋、背部の筋				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	8	筋系演習④:上肢の筋、下肢の筋				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	9	神経解剖学演習①:中枢神経系(総論、髄膜、脳室、発生)				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	10	神経解剖学演習②:中枢神経系(脊髄、大脳)				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	11	神経解剖学演習③:中枢神経系(間脳・脳幹・小脳)				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	12	神経解剖学演習④:脊髄神経、脳神経				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	13	神経解剖学演習⑤:自立神経、伝導路				授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること	
	14	骨学演習				骨学実習に向け30分程度の復習をお願いします	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					100%
履修上の注意							

科目名	生理学演習							
科目名(英)								
単位数	1		時間数	30時間		担当者	坂口 博信	
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年							
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにするを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験ることによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。							
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技: ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる		
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。		
		○	○			生理学実験を行い実際の生理機能について学習する		
テキスト・教材 参考図書	カラー図解 新しい人体の教科書 上・下巻 講談社ブルーバックス 参考文献:コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	中枢神経系1 中枢神経					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	2	中枢神経系2(運動機能の調節)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	3	中枢神経系3(学習・記憶)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	4	中枢神経系4(睡眠)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	5	感覚1(視覚)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	6	感覚2(聴覚)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	7	感覚3(嗅覚・味覚)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	8	感覚4(体性感覚)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	9	実習 体性感覚1					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	10	実習 体性感覚2					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	11	実習 体性感覚3					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
	12	実習 随意運動の反応時間(光・音刺激)					実習の準備をお願いします(30分)	
	13	自由テーマ					実習の準備をお願いします(30分)	
	14	自由テーマ					実習の準備をお願いします(30分)	
	15	定期試験					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○						50%
	実習レポート	○		○	○			50%
履修上の注意								

科目名	精神医学									
科目名(英)										
単位数	1			時間数	15時間			担当者	諸江 健二	
実施年度	2020年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目	精神科クリニックにて医 師として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年									
授業概要	精神医学の一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低学ばねばならない事柄を身につける。									
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				精神疾患の分類と機能評価について概説できる。				
	○	○				三大精神病を概説できる。				
	○	○				発達障害について概説できる。				
	○	○				診断基準について概説できる。				
	○	○				器質性精神障害について概説できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書：奈良 勲／鎌倉 矩子. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野精神医学. 医学書院、 参考文献：加藤 正明. 精神科ポケット辞典. 弘文堂									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	精神疾患の分類と精神機能の評価					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分 程度復習しておく。			
	2	統合失調症					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分 程度復習しておく。			
	3	気分障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分 程度復習しておく。			
	4	心因性疾患(神経症・心因反応、心身反応を含む)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分 程度復習しておく。			
	5	生理的、行動の障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分 程度復習しておく。			
	6	器質性精神障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分 程度復習しておく。			
	7	発達障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分 程度復習しておく。			
	8	操作的診断					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分 程度復習しておく。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○		○				100%		
履修上の注意										

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	自見 至郎
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病織学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
		○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学 的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
		○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞・組織・器官				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	2	病理学概論(病因と組織変化)				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	3	内因と外因・病気の分類				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	4	先天異常、遺伝子・染色体異常				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	5	代謝障害と細胞および組織変化(変性と壊死)				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	6	脂質、タンパク質代謝障害				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	7	タンパク質代謝における肝臓と腎臓の役割				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	8	ビリルビン代謝障害、循環障害1(充血、うっ血、貧血、虚血)				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	9	循環障害2(血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫)				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	10	炎症、免疫				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	11	アレルギー				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	12	免疫不全、移植				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	13	腫瘍1				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	14	腫瘍2				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
	15	まとめ				授業に該当する教科書の部分について復習すること (30分)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

[illegible]

科目名	臨床神経科学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎	
実施年度	2020年度		実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年生						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修するうえで臨床神経科学に関する知識、技能、態度を習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				中枢神経系疾患の病態、診断、治療について説明できる。	
	○	○				覚醒下脳手術について説明できる。	
	○	○				脳電気刺激法・脳磁気刺激法を使用した治療法について説明できる。	
	○	○				基本的な神経学的検査について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:川平 和美「神経内科学 第5版(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)」医学書院、 中島雅美、理学療法士・作業療法士 PT・OT基礎から学ぶ 神経内科学ノート、医歯薬出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	意識障害の基本				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	2	感覚障害				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	3	脳血管障害(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	4	脳血管障害(その他の脳血管障害)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	5	頭部外傷				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	6	脳腫瘍				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	7	変性疾患(大脳基底核疾患、運動ニューロン疾患、脊髄小脳変性症)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	8	変性疾患(その他の変性疾患)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	9	脱髄疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	10	末梢神経障害				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	11	運動ニューロン疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	12	筋疾患				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	13	覚醒下脳手術、脳電気刺激法・脳磁気刺激法				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	14	神経学的検査(意識、感覚・知覚、反射、筋力、筋トーヌス)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
	15	神経学的検査(筋萎縮、不随意運動、協調運動障害、自律運動障害等)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(30分)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記試験)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	形成外科学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	大部 一成・川野 真太郎 新井 伸作	
実施年度	2020年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	顔面や皮膚の成り立ちと顔面・皮膚疾患について知るとともに、構音や摂食・嚥下の 正常な状態を理解し、それらの病的な状態を把握できるようにする。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				顔面や皮膚の成り立ちを理解し説明することができる。	
	○	○				顔面・皮膚疾患について理解し、説明することができる。	
	○	○				顔面・皮膚疾患について理解し、摂食嚥下および構音への影響を説明することができる。	
	○	○				頭頸外科学手術について理解し、適用について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	学校で使用する口腔外科の本 参考文献：①TEXT形成外科学 南山堂 ②標準形成外科学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	形成外科総論				授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する (30分)	
	2	口唇裂				授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する (30分)	
	3	口蓋裂				授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する (30分)	
	4	頭蓋、顔面の先天異常				授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する (30分)	
	5	頭頸部外科に伴う障害				授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する (30分)	
	6	瘢痕とケロイド				授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する (30分)	
	7	組織移植				授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する (30分)	
	8	まとめ				講座全体を振り返り学習をする(2時間)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学								
科目名(英)									
単位数	1		時間数	30時間		担当者	平塚 正雄		
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	病院にて歯科医師として 勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年								
授業概要	歯科疾患や口腔疾患の病態を理解し、口腔機能障害に対する歯科的治療法を学び、歯科医師と言語聴覚士との協働・連携および多職種におけるチーム医療について学ぶ。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				歯科医学の概要について説明できる。			
	○	○				各歯科疾患の発現機序について理解し、症状について説明できる。			
	○	○				臨床における検査および評価について概要を説明できる。			
	○	○				口腔ケアの技法について理解し説明することができる。			
	○	○				感染予防の理念を理解し、消毒・滅菌の方法および重要性を説明することができる。			
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士のための基礎知識「臨床歯科医学・口腔外科学」(医学書院)言語聴覚士に必要な歯科の知識(インテルナ出版)								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	歯科医学概論 歯科医学の歴史と重要性					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	2	歯・歯周の疾患					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	3	う蝕および歯髄炎と根尖性歯周炎					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	4	歯質および歯の欠損と不正咬合					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	5	口腔・顔面の異常					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	6	口腔・顎・顔面の外傷					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	7	口腔・顎の炎症					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	8	口腔粘膜の疾患					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	9	口腔・顎領域の嚢胞					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	10	口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	11	顎関節の疾患と唾液腺疾患					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	12	神経疾患と中枢性疾患および加齢による口腔機能障害					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	13	口腔の機能障害と検査および評価、消毒・滅菌法					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	14	歯科・口腔外科の治療法および口腔ケア					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	15	まとめ					教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○	○				100%		
履修上の注意									

科目名	呼吸発声発語系医学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	灘吉 享子
実施年度	2020年度		実施時期	後期 I		実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年						
授業概要	言語聴覚士に必要な呼吸機能に関わる、解剖の知識を修得し、そのメカニズムについて結びつけることができる。そして、基本的な意識をもって、呼吸リハビリテーションについて考える基礎をつくる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				呼吸器系の基本構造と機能が説明できる。	
	○	○				呼吸器系の疾患の名称を列挙できる。	
	○	○				呼吸器系の疾患の特徴を概説できる。	
	○	○				呼吸器系の疾患の特徴を概説できる。	
				○	○	授業時に質問ができる。課外学習の取り組みがある。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:黒澤 一・佐野裕子著 呼吸リハビリテーション Gakken 熊倉 勇美編集 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 医学書院 参考書:言語聴覚士テキスト 医歯薬出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	呼吸および呼吸リハビリテーションの概要				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	2	呼吸器系を構成する要素(気道系・肺胞系・脈管系)				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	3	呼吸器系を構成する要素(胸郭系と神経系の関係)				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	4	呼吸の仕組み				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	5	発声時の呼吸調節				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	6	呼吸器系の病態				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	7	呼吸器系の病態				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	8	換気機能の指標について(スパイログラム)				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	9	換気機能の指標について(血液ガス)				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	10	呼吸リハビリテーションを行うにあたっての評価				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	11	呼吸リハビリテーションを行うにあたっての評価				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	12	呼吸リハビリテーションを行うにあたっての評価				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	13	呼吸リハビリテーションの手技の実際				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	14	呼吸リハビリテーションの手技の実際				教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)	
	15	気管切開とコミュニケーションの問題／まとめ				これまでの知識を自分なりにまとめ、試験に向けた資料整理を行う。(30分)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	○	○				15%
	宿題・レポート		○		○		10%
	質問・取り組み				○	○	5%
履修上の注意							

科目名	生涯発達心理学の演習						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	15時間		担当者	永江 慎吾
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院で言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	出生後から幼児期までの発達の様子を理解する。 保育所見学で実際の子どもの様子を観察し、発達表を作成する。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				乳幼児の発達検査、スクリーニングの特徴を述べることができる	
		○				遠城寺式乳幼児発達検査表、言語発達尺度における各年代の発達の特徴を説明できる	
		○		○		保育所見学で観察した子どもの様子をもとに、オリジナルの発達表を作成する	
テキスト・教材 参考図書	資料を配布						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	乳幼児期の発達（発達のみちすじ）				前期の生涯発達心理学のテキストを読み返しておくこと(60分)	
	2	遠城寺式乳幼児発達検査表				クラッシーで振り返り課題を実施(30分)	
	3	言語発達尺度(基礎項目、言語理解、言語表出)				クラッシーで振り返り課題を実施(30分)	
	4	言語発達尺度を基に保育所見学の観察ポイント作成				クラッシーで振り返り課題を実施(30分)	
	5	保育所見学				オリジナル発達表を班ごとに作成(30分)	
	6	保育所見学				オリジナル発達表を班ごとに作成(30分)	
	7	保育所見学				オリジナル発達表を班ごとに作成(30分)	
	8	グループ発表(オリジナル発達表について)				オリジナル発達表を班ごとに作成(30分)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)レポート(オリジナル発達表)を作成し提出する。(2)クラッシーで振り返り課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート(オリジナル発達表作成)	○	◎		○		70%
	クラッシー振り返り課題	○	◎		○		30%
履修上の注意							

科目名	応用音声学								
科目名(英)	Applied phonetics								
単位数	1		時間数	30時間		担当者	今村 亜子		
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年								
授業概要	私たちは、普段人と話をする最、「音声」を媒介にしてコミュニケーションを行っています。前期で学んだ音声学の基礎をふまえて、後期は特に音韻論の観点から日本語 の音声を考えていきます。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				言語聴覚士の臨床と音声の関りを説明することができる。			
	○	○				音声の構造について説明することができる。			
	○	○				アクセント、イントネーションについて説明することができる。			
	○	○				音声の知覚について説明することができる。			
テキスト・教材 参考図書	今泉 敏 言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」東京:医学書院 斉藤純男 日本語音声学入門(改訂版)東京:三省堂								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	音声学と臨床:ことばのくさりと音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	2	音声学と臨床:構音障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	3	音声学と臨床:音声障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	4	音声学と臨床:流暢性の障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	5	音素という概念を理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	6	最小対と相補分布という概念を理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	7	単音(分節音)より大きな音の単位であるモーラを理解する。特殊モーラを理解する。				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	8	モーラより大きな音の単位である音節と、音節構造について理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	9	超分節的特徴について理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	10	日本語のアクセントについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	11	イントネーションについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	12	リズム、ポーズ、プロミネンスについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	13	音響音声学(母音と子音)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	14	聴覚音声学(音声の知覚)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
	15	全体のまとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○	○				100%		
履修上の注意									

科目名	聴覚心理学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	15時間		担当者	藤井 忍
実施年度	2020年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	音響学における音響心理の基礎的事項を学ぶと共に聴覚の役割を理解する。						
授業形式	講義: ○		演習:		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				音の要素について説明することができる。	
	○	○				音の大きさの知覚について説明することができる。	
	○	○				音の高さの知覚について説明することができる。	
	○	○				弁別閾について説明することができる。	
	○	○				マスキング及び臨界帯域幅について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 青木直史「ゼロからはじめる音響学」講談社、2014						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音の大きさの知覚、フェヒナーの法則				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	2	スティーブンスのべき法則、ウェーバの法則				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	3	音の高さの知覚、mel尺度				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	4	場所ピッチ、時間ピッチ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	5	マスキング				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	6	臨界帯域				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	7	両耳聴、方向知覚				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	8	MLD、先行音効果				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	言語発達学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	福島 志津
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	小児の言語発達について学習し、前言語期から学童期以降までのコミュニケーション行動や言語発達の過程を理解する						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				言語発達の基本的概念について説明できる	
	○	○				言語発達の各期の概要について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚療法シリーズ 2 言語聴覚障害総論Ⅱ（建帛社）言語聴覚士のための言語発達障害学（医歯薬出版）						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語発達の基本的概念（言語発達と脳の発達、臨界期）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	2	言語発達の基本的概念（言語獲得と聴覚系・発声発語系の関連）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	3	言語発達の基本的概念（コミュニケーション、語音認知、構音の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	4	言語発達の基本的概念（語彙、統語、語用、読み書きの発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	5	言語発達の基本的概念（言語獲得理論）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	6	前言語期の発達（音声知覚と音声表出）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	7	前言語期の発達（コミュニケーション能力の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	8	幼児期前半の言語発達（音声知覚と音声表出）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	9	幼児期前半の言語発達（コミュニケーション能力の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	10	幼児期後半の言語発達（言語理解の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	11	幼児期後半の言語発達（言語表出の発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	12	児童期の言語発達（言語理解、言語表出、読み書きの発達）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	13	青年期以降の言語発達（青年期から老年期までの特徴と問題）				クラッシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	14	まとめ①（定期試験対策シートの作成）				クラッシーで振り返り課題を実施 定期試験対策（60分）	
15	まとめ②（国家試験問題の解説づくり）				国試形式の課題（言語発達学の分野） 定期試験対策（60分）		
評価方法	(1)小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 (3) 自分自身の発達を振り返るレポート課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	◎	◎		○		10%
履修上の注意	生涯発達心理学で学んだ知識を活用しながら理解を深めていく。						

科目名	失語・高次脳機能障害の展開 総論											
科目名(英)	Deployment of Aphasia and Higher brain dysfunction General remarks											
単位数	1		時間数		30時間		担当者		小川 春美			
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年生											
授業概要	失語症と高次脳機能障害の評価や訓練に関する基礎知識を習得する。 失語症や高次脳機能障害のリハビリテーションにおける職種連携について学ぶ。 失語症や高次脳機能障害関連の文献抄読を通して、言語聴覚療法における訓練・指導・支援や地域社会とのかかわりについて考える。											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標						
	○	○				失語症と高次脳機能障害の評価の目的や評価の流れについて説明できる。						
	○	○				失語症と高次脳機能障害の評価の際に収集する情報や検査方法を挙げることができる。						
	○	○		○		失語症と高次脳機能障害のリハビリテーションについて、関連の文献を探索し、概要を説明できる。						
	○	○		○		国家試験の問題に取り組み説明することが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	テキスト 藤田郁代 標準言語聴覚障害学 失語症 医学書院 2015、藤田郁代 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 医学書院 2015、参考図書 三村将 高次脳機能障害マエストロシリーズ 2 画像の見かた・使いかた 医歯薬出版株式会社 2006、鈴木 孝治高次脳機能障害マエストロシリーズ 3リハビリテーション評価 医歯薬出版株式会社 2006											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	言語聴覚療法の評価の目的と流れ					テキストの該当項を30分読んでおく。					
	2	失語症 高次脳機能障害の評価の原則					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	3	関連障害の評価や対応法について					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	4	情報収集の種類					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	5	情報収集 観察の方法					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	6	言語面の情報 スクリーニング検査					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	7	言語面の情報 掘り下げ検査					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 中間期の小テストを実施するので、復習しておく					
	8	情報収集 医学面 社会面 関連情報について					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	9	情報の統合 評価のまとめ					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	10	問題点の抽出と目標設定					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	11	失語症と高次脳機能障害 言語聴覚療法の理論と技法					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	12	失語症と高次脳機能障害のリハビリテーション 訓練から支援					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 Classiで確認テストを実施するので、復習しておく					
	13	失語症と高次脳機能障害のリハビリテーション 地域との連携					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
	14	失語症と高次脳機能障害のリハビリテーション 症例検討					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
15	まとめ					定期試験に向け、資料、テキスト、Classi、小テストの内容を30分確認し、復習しておく						
評価方法	(1)授業の中で小テスト1回(中間期)、クランチーを10回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		○								70%
	小テスト・クランチー	○		○				○				20%
	レポート・発表	○		○				○				10%
履修上の注意												

科目名	発達障害・SLIの理解										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	15時間		担当者	永野 淳子				
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	小児施設にて心理担当職員として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年生										
授業概要	発達障害(自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如/多動性障害)、特異的言語発達障害の基本的概念と知識を習得する。 自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害のそれぞれの関連を学ぶ。										
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△				
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害、特異的言語発達障害の定義を説明できる					
	○	○				自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害、特異的言語発達障害の診断基準を説明できる					
	○	○				自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害、特異的言語発達障害の症状を説明できる					
	○	○		○		各疾患で言語発達障害が生じる原因と発症メカニズムを推論できる					
	○	○		○		当事者、家族、関係者の心理を概説できる					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	発達障害の定義					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)				
	2	発達障害の診断基準(DSM-5、ICD-11)					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)				
	3	発達障害の言語領域の症状(語彙・文法、コミュニケーション)					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)				
	4	発達障害の言語領域の症状(発声発語、読み書き、認知)					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)				
	5	特異的言語発達障害の概要(定義と診断基準)					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)				
	6	特異的言語発達障害の言語領域の症状					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)				
	7	当事者、家族、関係者の心理の理解					事例検討資料の作成(60分)				
	8	定期試験					授業内容のワークシートを作成する 国試問題の調べ学習を行う(90分)				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)事例検討課題(レポート)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	◎				70%				
	レポート(事例検討)	○	◎		◎		30%				
履修上の注意											

科目名	小児聴覚障害の診断						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	井上 康子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年生						
授業概要	聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。						
授業形式	講義： ○	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					コミュニケーションモードについて説明できる	
	○					発達段階に応じた聴覚検査を選択できる	
	○					聴覚検査の手順を説明できる	
	○					本人・家族に評価結果を説明する方法を示すことができる	
	○					模擬ケースカンファレンスで報告する内容を示し、模擬的に報告できる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	聴覚障害児をめぐる社会的文化的背景や医療福祉教育の歴史			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	2	コミュニケーションモード			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	3	乳幼児聴覚検査			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	4	聴覚評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	5	言語発達評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	6	コミュニケーション発達評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	7	認知、社会性、情緒評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	8	面接評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	9	評価演習			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	10	情報の分析、統合、解釈			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	11	聴覚保証機器の適応と訓練の適応			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	12	評価サマリの作成			評価サマリを作成する(1時間)		
	13	統合と分析、治療計画の作成			治療計画を作成する(1時間)		
	14	ケースカンファレンス			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	15	定期試験と振り返り			講座全体を振り返り、繰り返し学習する(1時間)		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト						
	宿題・レポート				○		30%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床技術学Ⅰ									
科目名(英)										
単位数	1			時間数	30時間			担当者	高津原 直樹	
実施年度	2020年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年									
授業概要	・言語聴覚療法の実際を理解するために、病院見学や演習を通して臨床での言語聴覚士の仕事を学ぶ。 ・言語聴覚療法の臨床現場の概要について学び、STの役割を説明できるようになる。 ・1日見学を通して、観察した事項を文章表現できる。									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				言語聴覚療法の臨床現場の概要を学び、その体系を理解することができる				
	○	○				臨床現場に関する言語聴覚士の役割を理解することができる				
		○	○			見学内容を言語聴覚療法と関連付けて理解することができる				
	○	○				観察した内容を言語聴覚療法と関連付けて説明することができる				
				○		安全に配慮して見学を行うことができる				
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士テキスト 第2版 医歯薬出版 新編言語治療マニュアル 医歯薬出版									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	病院見学事前オリエンテーション					配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	2	病院見学					配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。オリエンテーションの内容を復習し確認しておくこと。			
	3	病院見学					配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。レポート作成準備			
	4	病院見学事後セミナー					見学資料を復習し確認しておくこと。レポート作成課題			
	5	演習 挨拶 電話連絡 施設内での振る舞い					配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。演習内容を再度行うこと。			
	6	演習 実習でのコミュニケーション					演習内容を復習しておく。演習結果をまとめ、レポートを作成する。			
	7	1日見学実習事前セミナー①					配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。			
	8	1日見学実習事前セミナー②					配布資料の疑問を整理しておくこと。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。			
	9	1日見学実習事前セミナー③					見学施設に関する疑問を整理しておく。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。			
	10	1日見学実習					見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。			
	11	1日見学実習					見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。			
	12	1日見学実習					見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。			
	13	1日見学実習					見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。			
	14	1日見学実習および演習事後セミナー①					見学資料を復習し確認しておくこと。見学内容を振り返り、疑問を整理しておくこと。			
	15	まとめ					レポート課題			
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(実技)	○		○	○		60%			
	レポート	○	○				40%			
履修上の注意										

科目名	地域リハビリテーション論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	永江 信吾		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年生						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる社会福祉、リハビリテーションに関する基本的知識を修得する。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					地域リハビリテーションの社会的背景と意義を説明できる	
	○					成人・高齢者の地域生活への支援を説明できる。	
	○					地域包括ケアについて説明できる。	
	○					小児の地域生活への支援を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 地域言語聴覚療法学」医学書院、2019						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	地域リハビリテーションの社会的背景と意義			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	2	地域言語聴覚療法とは			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	3	地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	4	地域における連携			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	5	地域言語聴覚療法の展開			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	6	地域言語聴覚療法におけるサービス			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	7	発達・教育の支援			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	8	小児の支援の実際			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート				○		20%
	発表・作品						
履修上の注意							